

東 奥 日 報
2026年(令和8年)7月15日(水曜日) (18)

オンライン診療車 お披露目

ハ
戸

八工大と八戸のクリニックが共同開発



八工大でオンライン診療車をお披露目した井上院長㊦と浅川教授

八戸工業大学と八戸市の「おひさま在宅クリニック八戸」は9日、通院困難地域での医療サービス提供を目的に共同開発した「オンライン診療車」の概要を発表した。交通手段を持たない患者の元へ診療車が出向き、クリニックにいる医師が車内の患者とモニター越しに会話しながら診察ができるよう、同大は必要な車内装備や医療デジタルトランスフォーメーション(DX)などについて助言。今後、災害現場などでの活用も視野に入れ、引き続き車両の改良を進める。

(千葉真由美)

診療車の開発は約1年前、が同大に相談したことが始まり。八戸市立市民病院と共同

エアコン、手洗い場など設置

オンライン診療車内に設置された家庭用エアコン。「暑い中歩いて来た患者が車内で涼めるようにしたかった」と井上院長



で移動型緊急手術室「ドクターカーV3」を開発した実績がある浅川拓克教授と、情報通信技術(ICT)が専門の小玉成人教授が研究に参画した。

札幌ポデー工業の中古の高規格救急車を改造し、車内の診療スペースの快適性向上へ

家庭用エアコンを設置。電源を医療機器用とエアコン用と分けたほか、清潔を保つための手洗い場を設けた。通信環境が悪い地域での利用を踏まえ、衛星通信サービス「スターリンク」を導入した。

9日、同大で浅川教授と井上院長が記者会見を開き、診療車を関係者にお披露目した。共同研究では今後、漁船の乗組員など海上の傷病者を救う「洋上救急」へのオンライン診療導入の可能性や、災害現場での診療車の活用などについて研究を進める。また同大の学生が、医療機関がない地域と交通弱者をテーマに調査を行う。

同クリニックは今年2月から、階上町で診療車を活用したオンライン診療を始めた。井上院長は「浅川先生には車の開発前から背中を押していただき、多職種連携や関係団体の支援でやっとスタートに立った。地域の皆さまに末永く使ってもらえるよう活動していきたい」と意欲。浅川教授は「現在は赤色灯やサイレンなどの装備はないが、将来的に緊急自動車の指定を受けられるよう準備を進めていく」と述べた。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」